

式 辞

本日、ウグイスが谷を飛び立ち、大きな木に向かっていくがごとく、いよいよ鶯遷の時を迎えました。

星城大学

- | | |
|-------------------|------|
| ・経営学部 | 249名 |
| ・リハビリテーション学部 | 60名 |
| ・大学院 健康支援学研究科修士課程 | 3名 |

の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

そして、本学の教職員および関係者の皆様には、学生教育のために学内外を問わずご足労を頂き、また、苦勞しながらも時間をかけ、学生の成長を支え、学生とともにキャンパスを盛り立てて頂きました。

皆さまのおかげで、無事に本日を迎えることができました。

保護者の皆さまには、ご息女ご子息のご卒業を心よりお祝い申し上げます。常日頃から、本学の教育研究の取組みへのご理解とご協力、また、ご支援を頂きありがとうございました。

さらに、本日はご来賓として、

- | | |
|------------------|---------|
| ・知多市市長 | 宮島 壽男 様 |
| ・東海市副市長 | 星川 功 様 |
| ・星城大学後援会会長 | 濱島 正好 様 |
| ・星城大学同窓会会長 | 柏木 克友 様 |
| ・学校法人名古屋石田学園理事長 | 石田 正城 様 |
| ・学校法人名古屋石田学園副学園長 | 石田 直城 様 |
| ・学校法人名古屋石田学園理事 | 福間 和修 様 |

をはじめ、ご来賓のご来駕を賜っております。衷心より御礼申し上げます。

卒業生の皆さん、お座りください。

丸の内キャンパスが新設された2019年の春、皆さんは本学に入学されました。

1年間の学生生活を過ごした後、2020年度の冒頭から、感染防止対策のための行動制限が始まり、文科省からの通達を受ける形で、本学も講義の形態を大きく変化させました。また、部活動をはじめとした学生生活についても、様々な制約が生まれることになりました。そのような大きな変遷の真ただ中で、皆さんは「自分づくり」を続けてきました。

さて、本学での大学生生活の4年間、「自分づくり」という言葉を幾度となく聞いたと思います。この「自分づくり」という言葉は、本学の創立者が建学の精神をまとめたときの言葉である、

「日々に新たなる『我』を磨き上げ造っていく」
が語源になっています。「夢の実現のために、自分を磨き続け、自

分を造り上げる。そして、造り上げた力を発揮し、これまで多くの
人から受けてきた恩に感謝し、社会に恩返しのできる人となる。」
ことを目指す言葉です。

そのために皆さんは、本学で、知識のみならず、知識の使い方を
学び、身に付け、日々「自分づくり」に励んできました。

4年前の入学式での自分と今の自分を比べてみてください。磨き
上げられたことを実感されていると思います。

そして、本日、学位授与式を迎え、明日からは新しい社会生活が
待っています。

ただし、皆さんの自分づくりは、社会に出てからが本番になりま
す。これからも、日々に新たなる“自分”を磨き続け、造り上げて
いって頂きたい。

そして、皆さんが互いに力を合わせ、団体・企業・病院で共に活
躍し、地域が発展する。ひいては、そこに住まう家族が豊かに、そ
して豊かで平和な日本が、世界の国々とともに発展していく。

そんな幸せにあふれる未来の社会を思い描き、そんな未来の社会を
創造してくれることを期待しています。

「未来の社会を思い描く」と聞いて、みなさんは、どのような風
景を思い描くのでしょうか？

皆さんが入学をした2019年度の入学式で式辞を読んだ前赤岡学長
は、次のような茨木のり子さんの詩を引用し、牧歌的な風景の中に
豊かな社会を描いていました。

「6月」茨木のり子 Web掲載にあたり詩本文の引用は割愛いたします。

豊かな村、豊かな街、そしてそこに住まう豊かな人々のある、
幸せにあふれる風景ですね。

みなさん自身が描く「幸せにあふれる未来の社会」は、どのような
風景なのでしょう？

最後になりますが、この4年間、先生や事務職員の皆さんは、あ
る面では厳しく、ある面では熱心に細やかに皆さんと接し、大学生
生活を共にしてきました。

ふと、大学のことを思い出したり、大学の近くに来る機会があれ
ば、ぜひ、大学に立ち寄って、その時、その時の皆さんのお話しを
聞かせてください。

それは嬉しい話でも、楽しい話でも、困りごとの話でも、日々の
苦勞の話でも、何でも構いません。

実は、そんな皆さんの卒業後の様子や姿を垣間見れることが、私た
ち大学スタッフにとって、何よりも有難く、何よりもうれしい瞬間
になるのです。

また近々、皆さんに会えることを楽しみにしています。

さあ、本日がみなさんの出発の日、旅立ちの日です。
鶯遷の時です。
これから一生「自分づくり」に励み、「沢山の人々に幸せを差し上げることのできる人生」これを造り上げていってください。

卒業おめでとう。

令和5年3月21日
星城大学学長
石田隆城